

切る・縫う・結ぶ・止める 外科基本手技+応用スキル [Web 動画付]

小坂 眞一 著

＜書評者＞ 宮入 剛（聖マリアンナ医大教授・心臓血管外科）

本書のタイトル『切る・縫う・結ぶ・止める』は外科手術の基本である。初めて手術室に足を踏み入れた研修医の時代から、先輩医師に口を酸っぱくして指導された手術手技のイロハである。例えば、駆け出しの時代に、椅子の背柱や机の脚などで繰り返し糸結びを練習した記憶は、どの外科医にも残っているであろう。しかし、それらの動作を巨細な指の動きのレベルまで突き詰めた外科医は、そう多くない筈である。

本書は、外科医であれば普段何気なく行っている数々の基本手技を、手や腕の解剖学的特性から説き起こした他に類を見ない内容となっている。それらのメカニズムが、多数の写真やイラストによって解き明かされていくさまは、まるでベン・ホーガンの『モダン・ゴルフ』のように鮮やかである。あまつさえ、本書には著者自らが実演する動画が86本も添付され

ていて、実際の動作を見ながら学べるというおまけ付きである。

著者の小坂眞一先生は、かつて本邦で最初の冠動脈バイパス手術の技術指南書を送り出し、世の心臓外科医の裨益するところ大であった。またその後も心臓病にならないためのわかりやすい新書などを出版され、社会の啓蒙に努めておられる。現在は日本AHVS/OPCAB研究会の代表世話人としてエキスパートの集団を率い、また早稲田心臓外科塾の主宰者として後進の指導にあたられている。本書は、外科の奥義を知り尽くした小坂先生が、そのスキルの全てを前途ある若手外科医に伝承したいという熱意に溢れた、渾身の一冊である。

もちろん外科医にとって、技術を伴わない理論は意味を持たない。技術は理解するものでなく、たゆまぬ練習によって実技のレベルまで落とし込むものである。しかし、

全ての鍛錬がそうであるように、初心者にとって正しい理論とメカニズムを知ってから実技を始めるのとそうでないのでは、技術修得のスピードばかりか到達度まで変わってくる。また、すでにある程度技術を修得した人にとっても、ふと疑問に思ったり、壁に突き当たったりして、原理原則に立ち返りたくなることはしばしば経験されるだろう。さらに、エキスパートの先生方にとっても、スキルの確認と整理、および後進の指導のために、基本技術をビジュアルに体系化した本書は極めて有用と思われる。全ての外科医の書架に藏していただきたい一冊である。

● B5 頁220 2021年10月
定価：6,600円
（本体6,000円＋税10%）
[ISBN978-4-260-04285-7]
医学書院刊